

遠く南の島「沖縄」 支部懇談会を訪ねて

育友会副会長 半田千賀子



最終学年となった今年の夏、沖縄支部の支部懇談会へ伺わせていただきました。台風の多いこの時期、出発前に発生した台風は幸いにも沖縄本島を避けて通過。沖縄滞在中の3日間は良い天気恵まれました。

前日に行われた打ち合わせの会場は、沖縄ならではの！海辺のバーベキュー施設。初めてお会いしたとは思えない支部役員の皆様の素敵な笑顔に迎えられ、話も弾み、有意義な時間を過ごさせていただきました。

支部懇談会当日。まず印象に残ったのは、冒頭に「大学紹介DVD」を30分間、出席者全員がしっかり鑑賞されていたこと。そして全員が起立しての「校歌斉唱」があったことです。DVDをご覧になるご父母の眼差しはとてもやさしく、我が子を探しているかのようにも見えました。また、今まで校歌斉唱のある支部懇談会に出席した経験がないためか、遠く沖縄の地にも、こうして「専修大学」にご子女を通わせていらっしゃるご父母がいるのだと改めて実感する場面となりました。

そしてもう一つ、他支部の支部懇談会でも感じたことですが、近年卒業された卒業生の登壇は、ご父母の関心が高く、今回もご父母からの質問に対する和やかなやり取りに心が和みました。遠く離れた地で頑張る我が子と、登壇している卒業生を重ねて見られているように感じられ、胸が熱くなりました。

午後から行われた個人面談の時間帯、私は支部役員の方々とお話をさせていただきました。話題はもちろん遠くに暮らす我が子のこと。「朝きちんと起きて学校に行けているか」「バイトばかりで勉強についていけているのか」「東京に行ってしまった時はずっと泣いていました」「いつも会いに行きたいと思っています」。お話しさせていただいたお母さまの一人が携帯電話を見せてくださり、その待ち受け画面には幼い頃の息子さんのお顔が設定されていました。

遠い南の島「沖縄」から我が子に思いをはせるご父母と直接お話し、自宅から我が子を通わせている私には分かるはずもないご父母の気持ちに触れさせていただいたことは、役員としての残された時間、活動の新たな糧となり「育友会として何が出来るか？」を問い続けることの必要性を強く感じる良い機会となりました。沖縄支部の皆様、ありがとうございました。

さて…私にとって人生初の沖縄の旅！支部懇談会の会場で宿泊先でもあるホテルは、有名な国際通りに面していましたので、支部懇談会の前日は少し早めに沖縄に入り、通りに立ち並ぶお店でお土産の下見などをしながらのんびり過ごさせていただきました。しかし…ここは沖縄。頭に描くは、青い海と白い砂浜！支部懇談会出席のための出張ということで完全にノープランだった私。果たして今回の旅で見て帰ることができるのだろうか？そんなことを考えていましたが、今回、様々なご縁に恵まれ、2日目の支部懇親会終了後、憧れのビーチで沈む夕日を見ることができ、日が沈んだ後の砂浜で夜空に広がるたくさんの星を眺め、国際通りに戻って美味しい沖縄料理をいただき、更に翌日は今回の旅では難しいだろうと思っていた、美ら海水族館へ行くことができました。そして海洋博公園内のビーチで念願の青い海と白い砂浜をバックに記念撮影。こうして書き並べているだけでも息切れしそうなほど、中身の濃い3日間を過ごさせていただきました。

遠く南の島「沖縄」で、多くの明るく素敵な笑顔とご温情に触れることができましたこと、また、忘れ得ぬ最高の思い出をいただきましたことに、今、感謝の気持ちでいっぱいです。

沖縄の皆様！いっぺーにふえーで一びたん！またやりたい！



↑沖縄支部役員、出張教職員の皆さんと共に

↓沖縄のビーチ



↑沖縄美ら海水族館

